



第30回 日本医学会総会
2019 中部 プレイベント

岐阜大学医学市民講座

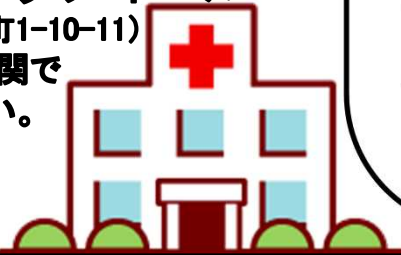
『皮ふの病気と治療の進歩』

参加費 無料
定員 限定 300名
対象 一般社会人

平成30年
10月14日(日)
13:30~16:30

会場

じゅうろくプラザ ホール
(岐阜市橋本町1-10-11)
※公共交通機関で
お越しください。



申込方法

①Eメール

下記ホームページより受講申込書をダウンロードし、必要事項を入力したものを添付の上、下記Eメールアドレスまで、件名に『市民講座申込み』と明記のうえ、送信してください。

②郵送またはFAX

下記ホームページより受講申込書をダウンロードし、必要事項を記入のうえ、申込み・問合せ先まで送付してください。なお、受講申込書の入手が困難な方は、①氏名(ふりがな) ②住所 ③性別 ④電話番号 ⑤過去の受講歴 ⑥年齢 ⑦職業 ⑧修了証書発行希望の有無を記入したものを送付してください。

※郵送の際には、返信用封筒(長型3号・82円切手貼付)を同封して下さい。

申込期間 : 8月1日(水)から9月28日(金)

【共催】

岐阜大学大学院医学系研究科
第30回日本医学会総会2019中部
岐阜県医師会

【後援】

岐阜県・岐阜県教育委員会
岐阜市・岐阜市教育委員会

申込み・
問合せ

〒501-1194 岐阜市柳戸1番1

岐阜大学医学系研究科・医学部 総務係

【TEL】058(230)6054(直通) 【FAX】058(230)6060

【Eメール】igakubu-30smn@gifu-u.ac.jp

【ホームページ】<http://www.med.gifu-u.ac.jp/shimin>

<電話受付時間> 9:00~16:00(土・日・祝日・8/13~15を除く)



国立大学法人

岐阜大学

毎年ご好評をいただいております岐阜大学医学市民講座の今年のテーマは「皮ふの病気と治療の進歩」です。今回は2019年4月に名古屋市で行われる第30回日本医学会総会中部のプレイベントとして開催いたします。

皮ふ病はアトピー性皮膚炎、乾癬(かんせん)のような、皮ふに症状をあらわす疾患だけでなく、膠原病(こうげんびょう)のように全身の臓器に症状をもたらす疾患もあります。また、最近では皮ふがんの増加が問題になっており、進行すると他の臓器のがんと同様に生命を脅かすこともあります。

皮ふは表面にある臓器ですので、皆様ご自身の目で早期発見しやすいという特徴があります。しかし中にはかなり進行した状態で医療機関を受診される場合もあります。また慢性の皮ふ病を患っておられる方の中には治らないからとあきらめて通院を中断される場合もあります。そこで皮ふ病の早期発見と進歩している治療法について市民の皆様 に正しい知識を知っていただくことが大切と考えられます。

今回の市民講座では岐阜大学病院で皮膚科診療に当たっている皮膚科専門医の講師4名がそれぞれの専門である、「皮ふがん」、「アトピー性皮膚炎」、「膠原病」、「乾癬」について、症状や合併症などの情報と最近の治療の進歩をわかりやすく解説いたします。この機会に皮ふ疾患についての理解を深めていただけると幸いです。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

<講師・講義内容>

○13:30～ 開講にあたって
第30回 日本医学会総会 2019 中部事務局

○13:40～14:20 【見逃すな！皮ふがんのサイン】

医学系研究科
皮膚病態学分野

教授 清島 真理子
(せいしま まりこ)



皮ふがんには多くの種類があります。また、その前がん病変もいろいろです。数が多いのは基底細胞(きていさいぼう)がんと有棘細胞(ゆうきよくさいぼう)がんで、高齢者によく発症し、しばしば紫外線、ヒトパピローマウイルス感染が原因となります。日光角化症やボーエン病は前がん病変で、進行すると有棘細胞がんになります。その他に乳房外パジェット病や悪性黒色腫(あくせいこくしょくしゅ:メラノーマ)も増えています。それぞれ初期には湿疹やほくろと間違えやすく、知らずに放置されることもよくあります。

皮ふがんでは早期発見、早期診断、そして手術が基本ですが、最近では塗り薬や飲み薬、点滴など新しい治療法が使えるようになり良好な結果を得ています。手術ができない場合も対応できるようになりました。皮ふがんの早期発見のポイント、予防法と最新治療について紹介したいと思います。

○14:20～15:00

【わかりやすい！ アトピー性皮膚炎の治療】

医学系研究科
皮膚病態学分野

准教授 加納 宏行
(かのう ひろゆき)



ヒトに限らず、生物は、常に外界からの情報に反応して生きています。その中で、皮膚は外界とのせめぎ合いに直接対峙する臓器です。健やかな皮膚は心身の健全さを視覚的にアピールするので、それが損なわれた時の精神的ダメージは計り知れません。

アトピー性皮膚炎は、その皮膚がごく日常の環境に曝されるだけでも炎症をおこしてしまう慢性疾患で、つらい痒みと精神的ダメージをもたらします。アトピー性皮膚炎の発症には2つの体質、つまり皮膚最外層の「角質層」の働きが弱い体質(バリア異常)、そして、買わなくてもいい喧嘩を買ってしまう体質(アトピー素因)が相互に影響を与えながら関与しています。今、その体質に直接働きかける新しい治療薬が登場し、今後その種類はますます増加することが期待されます。しかし、従来の治療方法でも、ちょっとしたコツを掴むだけで想像以上の効果を上げることが出来ます。新しい治療薬、従来の治療方法、それぞれの特徴を正しく理解して、アトピー性皮膚炎を克服してゆきましょう。

○15:00～15:10 休憩

○15:10～15:50【皮ふからわかる膠原病(こうげんびょう)】

医学部附属病院

皮膚科 講師 周 円
(しゅう えん)



膠原病(こうげんびょう)は、皮膚、関節や内臓に病変が生じる自己免疫性疾患です。代表的なものとして、全身性エリテマトーデス、関節リウマチ、皮膚筋炎/多発性筋炎、全身性強皮症などが挙げられます。膠原病は様々な皮疹を伴うことが多く、中でもレイノー現象は最も頻繁にみられます。これは寒さなどの刺激によって、指が白くあるいは紅色や紫色に変わる現象です。また、それぞれの膠原病に特異的な皮膚症状もあります。例えば、全身性エリテマトーデスで見られる頬にある蝶々の形をした赤い斑点があり、蝶形紅斑と呼ばれます。一方、皮膚筋炎では、指の節々にできる赤い斑点(ゴットロン徴候)や上のまぶたが赤く腫れるヘリオトロープ疹が特徴的です。膠原病の初期では、他の症状に先立ってこれらの皮疹ができるので、皮膚からのサインを見逃さず早めに病院を受診することが大事です。今回は膠原病の皮疹について解説します。

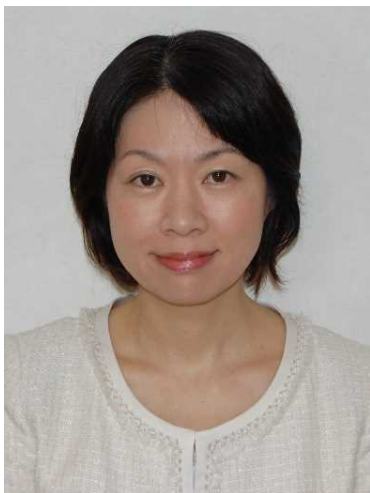
○15:50～16:30

【こんなに進んだ

医学部附属病院

皮膚科 講師 水谷 陽子
(みずたに ようこ)

乾癬(かんせん)治療】



乾癬(かんせん)という皮膚病をご存知でしょうか？皮膚が赤くなって盛り上がり、表面に白いフケ状の鱗屑(りんせつ)が付着し、ぽろぽろと剥がれ落ちます。日本人では、約40万人の患者さんがいると考えられています。原因はまだ完全にはわかっていませんが、免疫の異常が関係していることが明らかになってきました。治療の基本は塗り薬ですが、広範囲に症状がある場合は、光線治療や飲み薬を用います。2010年からは免疫の異常に直接アプローチする「生物学的製剤」といわれる注射薬が使えるようになり、皮疹ゼロも目指せるようになりました。現在は7種類の生物学的製剤を使用することができ、内服治療と合わせると治療の選択肢がどんどん増えています。乾癬の新しい治療法として、生物学的製剤を中心にご紹介したいと思います。

○16:30 閉講